実践 2

福祉×農業×交流

地域と連携して**遊休農地**を再生
大豆栽培で新たな収入源に

注目ポイント

1. 大豆は施設職員や障がい者にも栽培しやすく、遊休農地活用として最適
2. 地元の小学生やボランティアが栽培を担い、醤油メーカーと連携しオリジナルの醤油を商品化
3. 大豆は全量買い上げにより安定確保、醤油の品質の良さも売りに

社会福祉法人花工房福祉会
エコーンファミリー
http://www.hanakobo-fukushikai.jp/
（長野県長野市）

×

マルヰ醤油株式会社※1
NPO法人グリーンケアー NAGANO※2
長野市立川田小学校、農家ボランティア

● 基本データ（令和3〈2021〉年11月現在）

所在地	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1387-1
TEL	026-283-8787
開設年	平成13（2001）年
実施事業	生活介護（定員25人、現員24人）ほか
主たる障がい	知的

利用者の平均年齢	32歳
福祉事業活動における直接支援職員数	8人
目標工賃達成指導員の配置	有

※1　マルヰ醤油株式会社／地元の醤油蔵元
※2　NPO法人グリーンケアー NAGANO ／障がい者の就農支援事業に取り組むNPO

概要

SELP Vision 2030
1　2　5

エコーンファミリーでは、平成24（2012）年に地域活性化支援員から「遊休農地があるので利用しませんか」と打診を受けたことをきっかけに、長野県内の遊休農地を活用して地域の方々と一緒に大豆の栽培・収穫を行っています。

地域の食品加工会社と連携し、収穫した大豆を原料に醤油を商品化して販売しました。

利用者数と活動日数（令和３年９月実績）

１日以上参加した利用者数	8人
活動日数	22日
参加した延べ人数	23人

利用者の所属　**生活介護事業**

開始までの経緯

平成24年に地域活性化支援員が「遊休農地があるので利用しませんか」とエコーンファミリーに打診したことが事業に取り組むきっかけでした。しかし、事業所の職員・利用者だけで作物を生産し販売するには限界がありました。そこで作物の買い取り先を支援員に相談したところ、株式会社マルヰ醤油を紹介されました。

エコーンファミリーはさらに、地域の方と一緒に取り組むストーリー性のある製品を作りたいと考えました。そして、障がい者の就農支援に取り組むNPO法人グリーンケアーNAGANO、川田小学校、農家ボランティアとも連携することとなり、遊休農地での大豆栽培と醤油づくりの事業がスタートしたのです。

大豆を栽培する畑

具体的な取り組み

長野県内の遊休農地を活用して大豆を栽培し、マルヰ醤油と連携して醤油を商品化しました。大豆の栽培では、グリーンケアー NAGANO、マルヰ醤油、川田小学校の４年生、エコーンファミリーの職員と利用者が一緒になって、大豆まきと収穫作業をします。収穫までの期間の草取りは、エコーンファミリーの職員と利用者、農家ボランティアが行います。

収穫した大豆はエコーンファミリーが脱穀・選別し、マルヰ醤油が『みんなで作ったおしょうゆです。』とネーミングした製品に仕上げます。毎年２月には、一緒に作業をする川田小学校の４年生に醤油をプレゼントする交流を続けています。

職員の役割

本事業に携わる職員の人数　8人

- グループ長・サービス管理責任者　関係団体との連絡調整
- 生活支援員　利用者の作業補助

グループ長　関係団体と大豆栽培にあたっての作業スケジュールや作業内容等の連絡調整を行います。

生活支援員　利用者の大豆まき、草取り作業の補助や、体調管理等の声かけを行います。

草取りや大豆まき、収穫などの作業は、職種関係なく全員参加です。

収穫作業

大豆まき作業の補助の様子

生産設備・備品等

大豆収穫後の脱穀で使用する機械は農協からのレンタルで、１回3,000円程度で借りられます。醤油を製品に仕上げる工程はマルヰ醤油にお任せしており、エコーンファミリーは特別な備品を購入する必要がありませんでした。

工夫していること、心がけていること

川田小学校との連携

小学校は教員の定期異動があります。エコーンファミリーは年度初めに必ず連絡をとり、一緒に作業をしたいということを伝え、関係性が続くようはたらきかけています。

醤油が完成すると川田小学校を訪問し、作業に参加する児童に、出来上がった醤油をプレゼントします。その時は、エコーンファミリーの職人（利用者）たちが作った豆腐などもプレゼントして交流を続けています。

大豆の収穫増

大豆の収穫量を増やすため、雑草が生える時期の草取りの回数をできるだけ増やしています。協力農家の方々には早めに声をかけ、スケジュールが確保できるよう心がけています。

商品化した醤油

課題と対応

課題 連携先との日程調整 → 対応

４つの団体・組織にはそれぞれの「思い」があります。そのため時には、スケジュール調整や作業の進め方の合意を得ることにも、苦労があるそうです。事業継続には何事も、関係者皆に丁寧に説明し理解を得る姿勢と努力が欠かせません。

課題 新型コロナウイルスの影響 → 対応

外交販売（外販）が主であったため、販売先の事業所を訪問することができなくなり、イベント販売の機会がなくなるなど大きな影響が出ました。そのために醤油をはじめとする製品のインターネット販売を開始し、クラウドファンディングにも挑戦しました。また職員は、飛び込み営業による新規販路開拓にも取り組んでいます。

課題 気候変動 → 対応

気候の変動により、収穫量の減少や草取りが追いつかないなど生育状況に影響が生じることがあります。エコーンファミリーでは、毎年農家ボランティアの方と１年間のすすめ方を相談し、対策を検討します。

工賃の変動

エコーンファミリーの他製品と組み合わせたギフトセットを販売する工夫も凝らしました。

取り組み開始 直前 の
利用者の平均工賃
13,522円
（平成24年4月）

取り組み開始 後 の
利用者の平均工賃
15,933円
（令和3年9月）

反応・効果

利用者の反応・効果

大豆栽培を始めてから10年近く経過し、また、外作業が好きな利用者が多いため、一連の作業がスムーズに行われるようになりました。大豆まきは弁当持参で作業を行うため、地域の方と交流できるイベントのひとつとして、利用者は皆、毎年楽しみにしています。

職員の反応・効果

農業未経験の職員が、農家ボランティアの方に助けられ、大豆の栽培方法等の知識を得ることができました。地域の農家や企業、小学生と一緒に作業を行うことは、産業分野、職種、年齢を超えた交流を生んでいます。

地域の反応・効果

遊休農地の再生・活用につながりました。小学生の食育の一助となり、地域の方々の障がい者理解を深めることにもなりました。

★展望・課題

主に、収穫量のアップと人員の確保が課題です。収穫量は天候に左右され安定しません。エコーンファミリーは、収穫量アップを実現した事業所を視察し、勉強会にも積極的に参加して、対策を講じたいと考えています。

人員確保は、エコーンファミリーを運営する法人：花工房福祉会内の別事業所の職員や利用者にも力を借りる方法などを検討し、農地拡大につなげたい思いを膨らませているそうです。

エコーンファミリーのSDGsへの取り組み

収穫した大豆はすべてマル丰醤油が買い取り、育てた作物が売れ残ることはありません。廃棄されることもなくフードロスを減らすことにつながる仕組みを作ることができました。